

AI活用推進にかかる取り組み

少子高齢化による担い手不足や多様な働き方への対応を踏まえ、生産性と付加価値の向上を通じて社会インフラ事業を持続的に支えるため、AIの全社的な活用を進めています。これまでに生成AIを活用できる環境を整備し、情報検索や資料作成などの日常業務の効率化を推進してきました。さらなる利用拡大に向けて、社内規程などの文書を活用可能なAIツールの導入や、活用事例を共有するハンズオンキャラバンを実施しています。加えて、専門性の高い業務課題の解決を目指し、一部部署を「AI活用推進特区(ワーク・ラボ)」に指定し、実践的な活用にも取り組んでいます。今後も全社的な活動とワーク・ラボの活動を両輪にして、AIによる業務の効率化・高度化を進めていきます。



ハンズオンキャラバンの様子

BIM/CIMの活用による設計・施工の精度向上

大阪湾岸道路西伸部においては、構造物を3次元であらわしたBIM/CIMモデルの活用を行っています。例えば、大阪湾岸道路西伸部と交差する神戸新交通六甲ライナーの付近で工事をする際には、計画段階から施工に用いるクレーンの軌跡を3次元空間に再現し、関係者との協議に活用しました。ほかにも共有クラウドシステムを用いることで、作成した3次元モデルと、過去に取得した点群データを容易に重ね合わせることができ、円滑な資料作成・関係機関との調整などが可能になっています。



神戸新交通六甲ライナー付近の施工時の3Dモデル
(六甲アイランド東工区鋼桁及び鋼製橋脚その他工事)

点群データを活用した料金所点検の高度効率化

料金所点群データを取得することにより、机上で正確な建物の傾斜や経年による変化が把握できます。また、点群データを活用して点検を実施することで、点検情報を3Dモデル上で一元管理でき、点検の高度効率化につながります。具体的には、料金所点検時、点群モデルに損傷位置を示す点検ピンを登録し、その点検ピンに情報を入力することで点検情報を管理していきます。この点検ピンは損傷の度合いや点検時からの経過年数などによって、色分けや絞り込みができます。料金所ごとの損傷傾向の把握が可能となります。各点検ピンの点検履歴も確認可能のため、過去からの損傷状況の変化も把握できます。点群データを活用した料金所点検は2026年度より運用開始予定です。



料金所点群モデル(モデル内のアイコンは点検ピンを示す)